



待望の太鼓まつり

4年ぶり開催

八幡の夏の風物詩「太鼓まつり」が、7月15、16日に開催されました。新型コロナウイルスの影響で、開催は令和元年以来4年ぶり。

まつりは、石清水八幡宮の撰社・高良神社の例祭の宵祭。約200年前(文政年間)に、町ごとに大きな屋形御輿がつくられ、太鼓を打ち鳴らしながら練り歩く姿に発展したといわれています。

まつりに向けて、市内の保育園では法被を着た園児たちが手づくりの屋形御輿を担ぎ、中学校では生徒らが子ども屋形御輿を担いで、町内や校内を練り歩くなど、地域一帯がまつりムードに包まれました。まつり期間に入ると、一区、二区、三区、六区の法被姿の担ぎ手たちが、約2つの屋形御輿を担いで区内を巡行し、太鼓の音と「ヨッサー、ヨッサー」と威勢の良い掛け声を町内に響かせました。

16日の夕方からは、子ども屋形御輿3基と各区の屋形御輿4基が同神社に集結し「宮入」を挙行。各区の担ぎ手たちが、屋形御輿を激しく揺さぶりながら参道を勇壮に練り歩く姿に、詰めかけた観客からは盛大な拍手と歓声がわき起こっていました。

掛け声を響かせながら「オリジナル御輿」を担ぐ南ヶ丘保育園の園児たち(写真右)と、南ヶ丘第二保育園の園児たち(同左)

音楽体操で心身リフレッシュ

7月14日、橋本公民館でリフレッシュ体操が開催され、50〜70歳の女性13人が参加。音楽に合わせて、体を動かし、心地よい汗を流していました。

この体操は、心と体をほぐし、元気な体づくりを行うことが目的で、運動実践指導者の鷹野明子さんが講師を務めました。

まず、椅子に座った参加者は、リラックスできるゆったりとした音楽に合わせて、腕を曲げたり伸ばしたり、ツボを刺激したりと、

橋本公民館で講座

徐々に筋肉をほぐしました。次に、立った状態で、かかとの上げ下げを繰り返す筋力トレーニングを行ったり、アップテンポの音楽に合わせてダンスを踊ったり、楽しみながら心と体をリフレッシュしていました。



音楽に合わせて腕を曲げ伸ばしする参加者

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

自ら考え行動する力育んで

7月7日、くすのき小学校でプロサッカークラブ、京都サンガF.C.の専属コーチが派遣される出前授業「サンガつながり隊」が行われ、5年生74人が参加しました。

同授業はサンガが、体を動かすことの楽しさを伝え、自ら考え行動する力、コミュニケーション能力を育んでもらおうと、ホームタウンを中心に府下の様々な地域の小学校で実施している体験型授業です。

前半は、ボールを使わずグラウンドを使って体を動かすミニゲームを実施。児童はみんなで作戦を考え、声を掛け合い協力して攻防。ゴールが決まるとハイタッチで喜びを分かち合っていました。



チームに分かれてミニゲームをする児童

京都サンガF.C.専属コーチが小学生指導

竹林整備 里山の景観守る

府観光連盟 優良観光団体会長表彰

竹林整備による里山の景観保全のほか、男山展望台の整備、竹あかりの製作展示などを行う「NPO法人八幡たけくらぶ」。これらの活動の功績が認められ、令和5年度公益社団法人京都府観光連盟観光関連事業優良観光団体会長表彰を受けました。

竹下修史代表は「観光より自然環境の保全が活動の目的だが、整備した竹林を見て喜んでくれる人がいるのはうれしい」と語ります。伐採した竹を有効利用するため、男山展望台にある館内で、竹細工の製作教室や作品の販売も実施。最近では、竹

の含有成分に関する大学の研究に協力するなど活動の幅が広がる半面、団体の後継者や資金不足の課題もあるとのこと。

今後について竹下代表は「危険な作業も多いが、竹林整備の継続が一番大切。男山展望台をもっときれいにしたい。来訪者は、自然や周囲の人に尊敬の心で接し、ごみを持ち帰るなどの配慮を忘れずにいてもらえたら」と話していました。

今月のこの人

NPO法人八幡たけくらぶ



平成15年発足。男山展望台を拠点に市内の竹林整備や景観保全の活動をしており、令和5年7月現在の会員数は140人。